

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日平成28年11月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670105123
法人名	有限会社ライフサポート
事業所名	グループホーム福平
所在地	鹿児島市下福元町7505番地 電話 099-210-8550
自己評価作成日	平成28年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの敷地内には小規模多機能ホーム、有料老人ホームがあり合同での行事を賑やかにしています。春にはホームの庭にある5本の満開の桜の木の下でのお花見、夏には地域、家族の方々をお呼びして盛大な夏祭り、敬老の日には手作り弁当を作りご家族と一緒に祝いをしています。また利用者様と一緒に月に1回の外出、年に1回の一泊旅行を実施しホーム内では味わえない行事を行って喜んでいただいております。ホームとしても認知症の内部勉強会またグループホームの勉強会にも参加し、他の施設との連携を取りながら、利用者様やご家族にどのようにしたら喜んでいただけるかを、日々考えながら取り組んでいます。年に3回の消防署立会いの下での消防訓練、毎月の自主防災訓練に力を入れ災害に備えています。毎月ホームでお便りを作り、ご家族に様子を知らせています。またホームでの看取りについてもご家族、ご本人の希望があれば主治医と相談しながらお世話が出来ればと、職員の研修にも力を入れています。また、中学生の体験学習、サマーボランティア、踊りボランティアや町内会、愛護会など、多方面からの協力をいただきながら、利用者楽しく喜んでいただき笑顔いっぱいホームづくりを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地の住宅街に位置するホームは、有料老人ホームと小規模多機能ホームが同じ敷地内にある。
開設時から地域との関わりや交流には力を入れ自治会にも加入している。法人の全体行事の夏祭りでは地区の子供達が参加し、利用者と一緒に楽しんでもらっている。
職員は法人の全体理念とは別にグループホーム独自の理念を作ろうと、全員で検討した。また各ユニット毎にサブテーマを作り、日々のケアで理念を意識しながらのサービスに努めている。
職員は内部研修や外部研修に積極的に参加して自己研鑽に取り組み、自身のスキルアップを図り、サービスの質の向上に努めている。
今年度から新しく就任した管理者は、さらに地域との交流を密にしたい、運営推進会議の中身を充実したい、家族の思いを聞き入れたい等、日々職員と理念を振り返りながらサービスを向上させ、毎日利用者が楽しく笑顔いっぱい喜んでもらえるホーム作りを目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基本として、ユニット独自の理念を作成し、より個別ケアを深められるように実践しています。	事業所の理念とは別に今年1月にユニット毎に独自の理念を職員の思いを集めて話し合い、利用者の状況に添った理念を作成し日々のケアに活かしより質の高いサービスを目指している。毎朝の朝礼やミーティングで振り返りの機会を設け共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、行事の案内を頂いています。また、施設の行事へも参加いただけるように案内を出して交流をしています。利用者はあいご会の子供達の参加をととても喜ばれています。	自治会に加入しており、ホームの行事の花見や夏祭り、年末の餅つきなどにも回覧板を利用して呼びかけ、参加をもらっている。また地域の運動会を見学に行ったり、中学生の職場体験も受け入れており、日常的な交流は密である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議にて認知症に対する介護のあり方の話し合ったり、サマーボランティア、体験学習等受け入れ認知症の方々への対応、理解に関心を持ってもらえるように支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や活動内容、生活の様子などの報告や課題を検討したり、事例を挙げて意見を聞き参考にして、ケアの向上に生かしています。	2か月に一回の定例会議は小規模多機能ホームと有料老人ホームとの合同会議になっている。行政・自治会長・民生委員・地域住民・家族の参加をもらっている。行事報告・状況報告・事例報告や問題提起の意見交換・地域情報収集の場ともなっている。出された意見はケアとサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	よいサービス提供に繋がるように相談し、情報を取り入れている。また、保護申請の方でキーパーソンのいない方もいるので、担当者に協力をお願いしている。	運営推進会議への参加もあり、また日頃から面談や電話・メールなどで報告相談をしている。介護相談の受け入れもあり、日常的に情報交換し利用者の支援について協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について勉強会を行い、全員が理解するようにしている。危険行為のある場合は、見守り強化を行い、身体拘束をしないケアを行うようにしている。	身体拘束委員会での研修会とは別にホームのみでの勉強会も行っている。本人本位のケアを基本としながら、施錠しない自由な暮らしや見守りと連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	肉体的虐待や、言葉による身体的虐待について勉強会を行い、日々のケアを振り返り、虐待を見逃さない様になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護についての勉強会を行い、必要な方が入居されても対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に契約書の内容を読み上げながら説明を行っている。退去・利用料・入院などトラブルが予測される事項は、特に詳しい説明を行い、理解、納得出来る様に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族からの意見を頂きやすいように、玄関に意見箱を設置したり、面会簿にメモ欄を設けている。面会時には、何でも話せるような雰囲気づくりをしている。頂いた意見はスタッフ会で意見交換し、支援の参考にしている。</p>	<p>年2回の家族会や毎月の便り、面会時・電話連絡時等で利用者の状況を伝えるなど交流を図りながら、意見・要望を聞きだしている。意見箱や面会簿にも意見要望の欄を設けている。出された意見要望は職員で話し合い運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員それぞれのできる能力を引き出し、意見や提案を出してもらい常に管理者は代表者と連絡を取りながら運営に関する意見が言えるようにしている。どんな事でも皆で話し合える雰囲気作りに努めている。</p>	<p>毎月の法人会議やホームでのミーティングまた日常的にも意見を出し合っている。出された意見要望は運営に反映している。月1回の内部研修も職員からの要望で開催される事になった一例である。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者がスタッフの勤務状況を把握し、代表者へ報告している。代表者は多方面から、職員個々の状況に気を配り、職場環境や条件の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者がスタッフの力量を把握し、代表者へ報告している。また、法人内外の研修に参加出来る様に呼掛けを行い、スキルアップに繋がるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の勉強会などに参加し、情報交換の場を作り、サービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人が不安に思っていることや要望を、ほんにん・家族に聞いたり、情報提供書などで確認し、不安を取り除き安心して生活出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や要求を聞き、出来るだけ添えるように伝え、小さなことでも連絡を取り合い、対応していけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた折、本人にとって一番どうしたら良いかを家族本人と相談、いろいろな可能性をお話し見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で無理なく出来る事を一緒に行う。常に人生の先輩であることを意識し、学び合いながら過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様はもちろんの事家族の方の相談にも傾聴し思いを共有しながら一緒に本人を支えて行けるように努めている。家族の面会が少ないときにはさりげなくお願いする。自宅にもお連れします。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に外泊をされたり、兄弟の方の所にお連れしたり、これまでの歩んでこられた人生においての縁が切れない様に支援に努めている。	友人知人の訪問や、馴染みの理容院に行かれる方、また家族が旅行に連れていかれる方もいる。電話や携帯の取次ぎなどその関係が途切れない様に家族と共に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格、認知症の程度等を考慮しながら、座席も配慮し、利用者同士がやさしく楽しく関わり合える生活の場になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への退所の方はおられないが、亡くなられた方々についてはお参りをしたり、これまでの関係性を断ち切るのではなく、いろいろな相談事にも気軽にさせていただける様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族との会話の中や生活の中から本人の望む生活が出来る様に見つけ支援する。意思疎通が困難な利用者は、日常生活を話し合い、本人らしい暮らしをケア出来る様にしている。	日常の表情・行動また会話の中から思いや意向の汲み取りに努めているが、困難な場合には家族からの情報収集をしている。傾聴することで本人本位のケアを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活暦を聞いたり、日常生活の中での会話や様子等で、情報収集をして見逃さないようにし、それまでの生活環境を大事にしたケアに努めている。家族にもその都度聞く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のミーティング・連絡帳、ケースカンファレンスによって、一人ひとりの心身の状態を把握し、共有出来る様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し月1回スタッフ全員で一人ひとりの介護計画の評価・見直しについてカンファレンスを行い、本人・家族の希望、要望を反映したプランになるように努めている。	利用者・家族・職員・主治医の意見を取り入れながら個々に応じた計画を作成している。状況で見直しがあればその都度見直している。家族や利用者、職員からの意見を聞き個々の現状に即した計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、ケアプランを頭に入れながら、異変や気づいた事を細かく記録し、職員全員が情報を共有し、毎月のスタッフ会議で討議しながら支援を行っている。毎日の引継ぎを大切にしている。プランの内容についても毎日見るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の変化するニーズに合わせ、他機関と連携を持ち臨機応変に対応している。また、利用者の体調変化には早めの対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元中学生の体験学習を受け入れる事や地域の方とふれあう事により、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように努めている。お花見、夏祭り、餅つきには町内会の参加もいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を優先し、連携を取りながら支援している。受診時は状況を適切に把握するために「病院受診連絡表」を活用している。ホーム側で受診した折には、結果報告を必ず家族に連絡するようにしている。	基本では本人家族の希望するかかりつけ医の受診となっているが、協力医療機関の往診・受診が多くなってきている。ホームの職員が同行する事が多いが、「病院受診連絡表」を家族が同行する際に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職員と介護職員は連携をとりながら、少しの変化も見逃さず、体調管理を行っている。看護師には常に連絡が出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は面会に行ったり、家族から情報を得たり、医療機関より情報を得たりしながら、早期退院できるように取り組んでいる。また、本人・ご家族の不安を軽減出来る様に話し合いも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の付いて、本人、家族の意向を聞いており、その方針は全員共有している。また状況変化に応じて、その都度、再確認している。職員については、看取りについても勉強会で学んで主治医と連絡を取りながら実施している。	重度化や終末期に向けた指針を入所時に利用者・家族には説明して同意書も交わしている。看取りの経験もあり、職員には看護師もおおりホームで勉強会を重ね知識や経験を積んでいる。終末期には段階を踏まえた話し合いを、主治医と連絡をとりながら方向性を共有し最大限のケアが出来るよう支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習会を実施し、実際に人工呼吸や異物除去法の訓練を行っている。また、連絡網やマニュアルを事務所の目に付きやすい所に設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は年3回消防署の立会いで、さまざまな状況を想定して実施している。また、毎月9日には防災についての勉強会を行い、安全に避難誘導できるようにしている。消防署からきていただき、疑問点等を話し合う機会を作るようにしている。</p>	<p>年3回の消防訓練では地域の参加もあり、スプリンクラーやAEDも設置している。備蓄の確保も出来ており、毎月各ユニット毎の自主訓練も行っている。今後は地域の方の協力体制の役割分担まで検討する予定である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃一人ひとりを大切にする、言葉掛けや介護方法を話し合い、意識の向上を図っており、理解して対応している。個人情報保護法や取り扱いについても周知している。	排泄誘導時の声掛けも誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。名前は個々に応じた呼び方をしているが、馴れ合いの関係にならない様に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、常に本人がどのように生活したいのかを探りつつ、本人の思いを大切に、不安なく心豊かに暮らせる様、家族の思いも尊重しつつ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、本人のペースに合わせた声掛けを行い本人の希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	家族からの情報や本人の様子を確認して、本人が心地よいおしゃれが出来る様に助言しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好き嫌いを確認し、特に旬のもの、誕生日のお祝い、お正月、お盆、敬老会、お花見、等その時その時を大切に美味しく楽しく食事が出来る様に努めている。	ホームには菜園もあり手作りの季節の野菜で調理している。行事食・誕生日の食事、また手作り弁当持参で花見をする事もある。利用者には力量に応じて下膳やテーブル拭きのお手伝いももらっている。職員と一緒に楽しく美味しく食事を取ることで食事を楽しむことのできる支援に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態、嗜好、摂取状況に合わせ、食事量と水分量を把握し提供している。水分不足になりがちな利用者へは工夫して摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けやセッティング、仕上げ磨きをおこなっている。歯科医師による口腔チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン習慣を理解し、適切に声掛け介助することにより、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、対応できるように支援している。	利用者の様子や排泄チェック表の活用で、利用者それぞれの排泄パターンを把握できるように努め、可能なかぎりトイレ排泄できるように支援している。オムツを減らす事で家族の負担も軽減されて喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットミルク、毎日の食事、おやつにも繊維性の食物を多く摂取する工夫している。排便周期のチェック、水分、散歩、腹部マッサージ等随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	無理強いする事無く、本人の体調や希望を取り入れ入浴を楽しんでいただいている。	基本的には週3回の入浴であるが、一人ひとりの体調や希望に応じた支援に努めている。入浴剤の使用などで気持ちよくゆっくりと楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にいるのが不安な人、寝付けない人等さまざまだが不眠時にはホットミルクを飲んでもらったり話をしたりして安心して休息、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局で個別にセットしてもらい、間違いのないようにしている。職員は薬の目的や副作用、用法について理解している。服薬については必ず2人でするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片づけ、日々の単純な作業等で一人ひとりに出来ることや得意なことを分担し、役割や自信を持って生活出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	晴天の日は、ホームの庭が広く芝生が敷き詰められて、季節の花等植えられ、外の陽や風に触れることが出来るよう中庭の散歩をしている。1年に1回一泊旅行に行ったりしている。	利用者の希望に合わせ、日常的に散歩・日光浴・買い物・ドライブなど外に出かけて楽しんでいる。家族の支援の下、墓参りや自宅へ帰るなどのほか、外食・外泊される利用者もいる。年に1回の旅行は利用者も職員も楽しみのひとつである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望や力量に応じてお金を所持し希望があれば一緒に買い物に行ったり、頼まれて買って来たりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や大切な人に電話連絡をしたい時は、電話ができるように支援している。お届け物があった折には、必ず電話し本人にもお話をさせていただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>皆さんが集まるホールでは季節の飾り物、庭のお花等を置き音楽、テレビもゆっくり見られるようにしている温度、湿度についても気をつけて居心地の良い空間作りに努めている。</p>	<p>対面式キッチンからは利用者の様子が把握でき、明るいリビングの出窓には利用者が育てた植物が飾られ、壁には旅行の思い出の写真や手作り作品が掲示されている。リビングから見える広い庭には桜の木が5本もあり春はお花見が楽しみになっている。明るく清潔保持に努めていることが感じ取られる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間でもテーブル、座席の配慮や和室の設置でゆっくりと足を伸ばしお話を聞いたりして思い思いに過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室には、ベッド、タンス備え付けてあり、自宅から馴染みの身の回り品や、仏壇等持ち込まれ、安心して過ごせる環境整備を行っている。</p>	<p>居室内はホームの設置品以外に、テレビ・冷蔵庫・位牌・タンスやテーブルを自由に持ち込んもらっている。各部屋の壁やカーテンは好きな色になっている。プライバシーを大切にしながら利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各箇所手すりが設置されており、全ての扉は引き戸で無理なく開閉出来るようになっている。トイレには目印をつけたり、夜間でも自由に移動出来る様にしている。移動に気付いたら見守るようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない